搾乳素牛セール初せり

らくのうマザーズ家畜市場

１月19日(金)、らくのうマザーズ搾乳素牛セールの初せりがJA熊本市畜産センターで開催されました。

せりに先立ち、セレモニーが開催され、らくのうマザーズ隈部会長の年頭の挨拶や、牛乳での乾杯が行われました。

多くの購買者が集まる中、育成牛５頭、初妊牛84頭、経産牛42頭の計131頭が売買成立しましたが（出品頭数は132頭)、初妊牛の平均販売価格は481千円(税抜）と前月より22千円の下落となり、前年同月比でも75千円の下落となりました。

厳しい情勢ですが北海道内市場の相場は、和牛ET腹とホル雌腹を中心に上昇しており、今後は春分娩の腹が中心となってくることもあり、今後は強含みで推移すると予想されます。

隈部会長

乾杯の様子

初セリの様子

COLUMN ―コラム―

『“幸福”とは何か？』

らくのうマザーズ専務
大川　清治

年も明け干支も「辰」になりました。辰は天に向かって昇って行く十二支の中で最も縁起の良い干支とされており、運気が上昇して夢が叶いやすい年と言われています。みなさんも初詣で「今年も“幸福”な良い年になりますように」と願をかけられたことだと思います。

ところが元旦の夕方、お屠蘇気分も吹っ飛ぶような大災害が発生しました。能登半島で震度７というあの「熊本地震」を彷彿させる痛ましい光景に、みなさん心を痛められたことだと思います。我々も、全国よりたくさんの支援をいただき心励まされましたので、今回もしっかりと支援をしていきたいと思います。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

私たちはあの熊本地震を乗り越えました。被災当時は、この先どうなることかと不安に晒され、普通の生活がいかに“**幸福**”なことであるかと感じたものでした。それから復興も進み、熊本の酪農も持ち直してきた矢先に、コロナ・戦争で令和の酪農危機が始まり、また不安に襲われました。世の中何が起こるかわからない時代ですが、日常生活はきちんと送られています。あの時感じた「普通の生活＝幸福」と思えば、十分“**幸福**”だということです。

それでは一体“**幸福**”とは何でしょうか？一般人は「快楽」や「富」を、金持ちは「名誉」を、同じ人でも病気の時は「健康」を、貧乏な時は「富」をというように、幸福の感じ方は人によって、またその時々によって違うような気がします。

先日テレビで、二千数百年前に書かれたアリストテレスの「幸福とは何か」という番組をやっていました。彼は、人生の究極目的は“**幸福**”にあると言っています。究極の目的ということは、相当な年齢に達してたどり着くものだというイメージがありますが、彼は「遠くにあるのではなく、今この自分の行為に基づくもの」と言うのです。それではどのような行為をすればたどり着けるのでしょうか？“**幸福**”になるためには、人間としての「力」を身につけることが必要だそうで、その「力」のなかでも極めて重要なものが四つあるそうで、**第一は「判断力**」、自分が直面している状況を的確に把握し適切な選択を下していく力です。**第二は「勇気**」、人生のさまざまな局面において直面する困難に立ち向かっていく力です。**第三は「節制**」、数多の誘惑に負けず欲望をコントロールし自分自身を律していく力です。**第四は「正義**」、自分のことだけでなく他者や共同体を重んじていくことのできる力です。これらの力を身につけることが“幸福”な人生を送るための前提条件であり、これらの力により人間の持っている可能性や能力を現実化して充実した生活ができるようになります。“**幸福**”というのは、はるか彼方にあるように見えていたかもしれませんが、そういう充実した生き方をしていること自体の中に既に幸福が実現しはじめていると彼は言っています。

また、彼は「人間とは社会的な存在であって、人と共に生きて初めて人間である」と説いています。人と人とを結びつける「愛＝友愛」は、人生にとって最も必要なものであり、友愛なしでは、他の全ての「力」を持っていても生きていきたいと思わないとも言っています。すなわち、友愛があれば戦争も起こらないし災害が発生しても皆で助け合い“**幸福**”な世の中になるということです。

二千数百年前に書かれた「アリストテレス」の哲学書ですが、現代の日々の生活に十分通じるものがあります。こういう時代だからこそ、いかに良く生きるかを考え、“幸福”になるための充実した生き方の参考になればと思います。

みなさん「今年も“**幸福**”な良い年になりますように」

引用：アリストテレス「ニコマコス倫理学」

繁殖管理の良好な牧場に聞いた、これが私のやりかた！

生産本部　指導部　営農指導課　南條　健太郎

直近の乳価改定によって２年前と比較すると手取りベースで約20円/ｋｇ程度が値上げとなり、皆さんの酪農の経営状況は厳しい時と比べると改善傾向にあるかと思います。ただ、現場で色々な話を聞く中で、乳代が安定した方もしくはそうでない方の経営状況には大きな差があることが分かります。それは何かを考えたところ『繁殖成績の善し悪し』が経営に影響していることが分かりました。良好な繁殖成績が安定すると、乳量が増える、子牛生産が増える等メリット面が多く、牛のサイクルも良くなり、結果として収入が増え経営が安定していきます。今回、熊本県内で繁殖成績が良好な２牧場の実例をご紹介します。ご自身の牧場と比較してどう違うか確認してみてください。

＜事例１＞Ａ牧場の状況（フリーストール、搾乳65頭、TMR給餌）

平均乳量	37.6kg
平均搾乳日数	142日
初回授精開始日	85日
空胎日数	132日
平均分娩間隔	401日
※Ｒ５年12月牛群検定成績	

（写真）搾乳牛の様子

＜移行期管理＞

・粗飼料の食い込みを重視（できるだけエサ押しを行う）
・そもそも繁殖が良いため太った牛（泌乳後期含む）が居ない、分娩後の病気が少ない。
・乾乳メニュー　粗飼料（稲WCS、チモシー、オーツ）＝８：１：１（乾物比）飽食、配合３kg、搾乳TMR ３～４kg（現物）、ビタミン剤、加熱大豆0.4kg（加熱大豆は分娩前３週間より給与）
・分娩後のケア　１～２産：ビタミン剤（カプセル）４粒（分娩当日）、エサの食いを見ながらプロピレンG
　　３産以上：上記に加えて、カルシウム１本（分娩当日）

＜発情発見＞

・複数人で目視による確認（スタンディングを重視）
・分娩後40日以降の無発情牛は獣医師へ必ず見せる（フレッシュチェックは必ず実施）
・発情周期の確認（発情兆候が弱いときは確認の為に授精師に見てもらう）

＜種付け＞

・分娩後60日以降にAIを実施（牛の状態を見ながら調整、早い場合は50日未満、遅くても100日まで）
・種付け後に発情回帰がないか必ず確認（発情来たらすぐにAI実施）
・プログラム授精はできるだけ実施せず自然発情を重視
・初回受胎率は約55％

＜栄養面＞

・搾乳牛はTMR飽食（食い込みみながら粗飼料などで調整）
・乾物摂取量が充足しているか日々確認

＜重視しているポイント＞

・発情発見（発情を絶対見逃さない、）そして種付け（スタンディング：基本AMPM法、マウンティング：発見から約１日後）
・フレッシュチェック時に問題が多い場合はどこが悪いかを確認し対応策を早急に実施

（左写真）乾乳牛の様子　（中央写真）2024年分娩予定表　（右写真）搾乳TMRの様子

＜事例２＞Ｂ牧場の状況（フリーバーン、搾乳145頭、TMR給餌）

平均乳量	36.9kg
平均搾乳日数	181日
初回授精開始日	76日
空胎日数	109日
平均分娩間隔	389日
体細胞数	126千
※Ｒ６年１月牛群検定成績	

（写真）搾乳牛の様子

＜移行期管理について＞

・泌乳後期でボディコンディションが高い牛は粗飼料中心へ変える
・乾乳日数は基本45日で一発乾乳（夏場７－10月分娩牛は50日）
　※乾乳予定日10日前にPLテスター
　　反応なし：乾乳軟膏未利用　反応あり：菌種を調べ抗生剤等で治療
・一番いい場所にゆとりのあるスペース（10m^2/頭）
・乾乳メニュー：バミューダストロー４kg、搾乳TMR10kg、WCS（自給飼料）飽食
・分娩後のケア：ビタミン剤、カルシウム、プロピレンG（３日間）、３産以上はカルシウム点滴
・分娩前後は独房で様子を観察

（左写真）乾乳牛の様子　（中央写真）乾乳舎飼槽の状況（右写真）搾乳TMR

＜発情発見について＞

・繁殖リストを必ず見て、牛舎に居るときは常に牛を見る（リストに載っている牛は特に重点的に）
・スタンディング発情を重視
・搾乳する前、待機場、搾乳後は特に観察（搾乳時に乳量低下牛は発情かどうか疑う）

＜種付けについて＞

・種付けタイミング（AM-PM法）
・分娩後150日以上で未受胎、体脂肪の多い牛は廃用候補
（繁殖を継続するかの線引きは経営にとって非常に重要）
・自分の牧場に必要な牛か残すかどうかは早めの判断を行う
・もったいないではなく、半年後、１年後の経済性を考慮する

＜栄養面について＞

・TMRのエネルギーバランスを重視（牛の状態を見てメイズ、粗飼料等で調整）
・ボディコンディションが揃った牛群を重視
・搾乳TMRの自給飼料ロールは３種類程度（水分多）使用し、購入乾草（オーツ、アルファ）で調整。
・哺育～育成～搾乳～乾乳は全て同じTMRを給与（ステージ毎に給与量や粗飼料で調整）

＜重視しているポイント＞

・牛群データ・繁殖データ（妊娠牛リスト、鑑定牛、未受胎牛、分娩予定、直近分娩間隔、未受胎牛150日以上等）を整理し、全員で共有、日々気づいた人がメモを行い、意識して牛群の観察（コンディション、発情）
・継続的な利益を出すために牛群管理の徹底（個体の把握）

繁殖の成績は１日で向上することはありません、ただ、今日から始められることは沢山あります。今回ご紹介した２牧場は毎日の積み重ねを怠らず続けた結果、繁殖成績の安定に繋がったと言えます。今日、明日からやるかどうかは本人次第です。少しでも改善したい気持ちがあれば今日からはじめましょう！やればできます！

繁殖に関して何かご不明な点があれば営農指導課までご相談下さい（TEL　096-388-3510）

令和５年度早期乾乳緊急促進事業に係る酪農経営緊急支援事業について

（一社）中央酪農会議を事業実施主体とする「令和５年度酪農緊急パワーアップ事業（早期乾乳緊急促進事業）」において40,610千円（1,550円／頭）の奨励金が交付されるに伴い、令和６年１月18日開催の第11回理事会において「令和５年度早期乾乳緊急促進事業に係る酪農経営緊急支援事業」が承認され、本会の奨励事業として以下の内容で施行されます。

１．交付対象

本会への生乳出荷者（公共機関を除く）

※令和６年３月31日まで本会へ生乳を出荷していること

２．奨励金額

43,230千円（不課税）

※単価：経産牛１頭あたり1,650円

※令和５年４月１日時点の飼養頭数（(独）家畜改良センターの牛個体識別全国ベースにおける乳用経産牛の頭数）

※生産抑制を計画していない生乳流通事業者に出荷している方及び自らの施設で自家製造又は製造委託等をしている方はその出荷割合に応じて減額となります。

３．奨励金の支払い時期

令和６年２月末日予定